

近江八幡市歴史浪漫デジタルアーカイブ 活用のご案内

自宅や学校の教室で
楽しみながらふるさとの歴史を
学んでみませんか



見て、歩いて、もっと知ろう！
近江八幡まち探検



1. デジタルアーカイブ「子どものページ」から近江八幡の魅力を発見！

図書館のホームページから、
近江八幡のまち探検に出発しよう！



近江八幡市立図書館のホームページにアクセスし、

「近江八幡まち探検」をクリック！



八幡町絵図

八幡町と日朝友好の道「朝鮮人街道」

豊臣秀次によって作られた城下町・八幡町は、江戸時代に、朝鮮通信使が通りました。

朝鮮通信使の
説明はここを
クリック

見て、歩いて、もっと知ろう！
近江八幡まち探検

気になるところをクリック

地図上にある名所の
一覧が表示され、ここ
から名所の説明を読
むこともできます。

この地図は、「八幡町絵図
(ユネスコ世界記憶遺
産)」をもとに描かれてい
ます。朝鮮通信使が通っ
た道が赤く塗られていま
す。絵図は大人向けのペ
ージで公開しています。

気になるところをクリック！！

1

本願寺八幡別院から出たり、引っ込んだりするお膳は？

朝鮮通信使をおもてなしした料理です。総勢約500人の一行のうち、正使、副使は本願寺八幡別院（金台寺）の書院で昼食の休憩をとりました。これは、その際に出された「五々三 本膳」です。具体的には、カラスミ、つけもの、魚の肉に鯉節をまぜ酒や酢にひたしたあえもの、鯛の塩焼き、かまぼこ、汁物、ごはんなどでした。

朝鮮通信使をもてなした料理のレプリカや朝鮮通信使の旗手に似せた人形を旧伴家住宅（資料館）でも見ることができます。

2

地図上の名所はクリックすると写真、紹介文、ストリートビュー（もしくはグーグルマップ）とリンクしています。

例えば、「ヴォーリス記念館」をクリックすると



ヴォーリス記念館

木造の外壁と赤い瓦屋根に白い煙突を持ったおしゃれな洋館は、ヴォーリス夫婦が住んでいた家をそのまま記念資料館にしたものです。近江八幡市の名誉市民第一号となったウィリアム・メレル・ヴォーリスの功績を讃えた生涯の記録と思い出の品を展示していますが、見学は事前には連絡が必要です。

ヴォーリスは、アメリカから日本に来てからアメリカの国籍をはなれて、日本国民になりました。【日本名は「柳 米来留」】、キリスト教を伝える活動を通じて学校や病院をたてるなど近江八幡市の教育や病気のやがをなす医療に大きく貢献しました。メンソレータム【現在はメンタム】で有名な近江兄弟社をつくり、会社を営み、建築家としても活躍しました。

記念館やヴォーリスについての説明を読むことができます。
ストリートビューでは、まちを歩いているような気分を味わえます

※子どものページ八幡町絵図の中には、この他にもヴォーリス建築の「旧八幡郵便局」、「八幡商業高等学校」、「池田町洋風住宅街」が掲載されています。ヴォーリスについてもっと詳しく知りたい場合は、大人向けページの「湖畔の声」の説明を参考にしてください。

中山道

ぞうさんも歩いた「中山道」

将軍吉宗の江戸時代、享保14（1729）年6月に、ベトナムからやってきた象が江戸に向かうために、中山道を歩きました。



3

ぞうがやってくるので、次のことに気をつけること

見て、歩いて、もっと知ろう！
近江八幡まち探検

中山道

とじる

**ぞうがやってくるので、
次のことに気をつけること！**

- ① さわがないように！
たくさんさんのひとがおおぜいでさわぐと、ぞうがビックリしてたいへんなことになります
- ② 青草のはえていないところでは、竹の葉をじゅんぴすること！
ぞうのエサは竹の葉、青草・わらです
- ③ 青草は一日30斤(約180キログラム)食べるので、少しずつ準備すること。
- ④ ぞうのみ水には、新鮮な水を準備すること。
- ⑤ ぞうがとまる小屋は、おおきくてじょうぶな小屋にすること。
- ⑥ ぞうは大きいので、気をつけること。
県からしゃばまで、一丈一尺(いちじょういっしゃく)【やく3、3メートル】、
よこはばが四尺【やく1、2メートル】。
～『象御境内通り 候 一件』より～。各村へ指示が出されました。

Powered by ADEAC®

ここに入力して検索

【市内児童の声】

象が中山道を通ったのは知っていたけれど、象のために用意する餌の量がものすごく多かったことにびっくりしました。昔の人達は、遠い道のりを歩いていたので、大変だったのだと思いました。

わたしたちの住んでいる近くの中山道の事について詳しく知ることができて良かったです。

伊勢
長光寺

2. もっともっと、近江八幡!! デジタルアーカイブ「大人向けページ」

～ふるさと教育に活用できるコンテンツ～



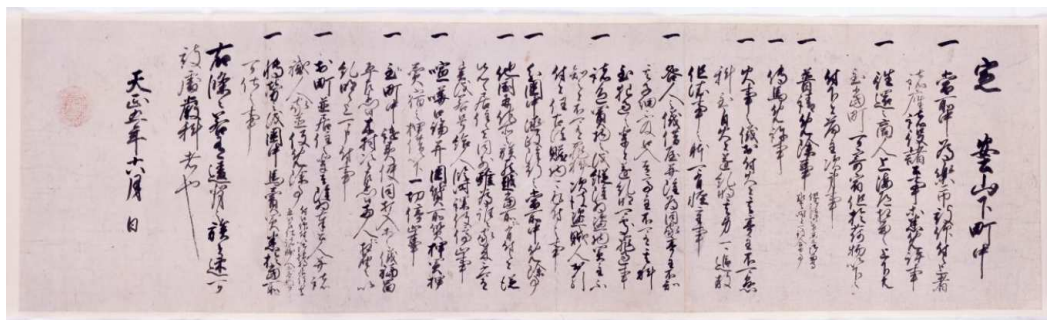
6つのカテゴリー
に分けて掲載
しています

古文書編

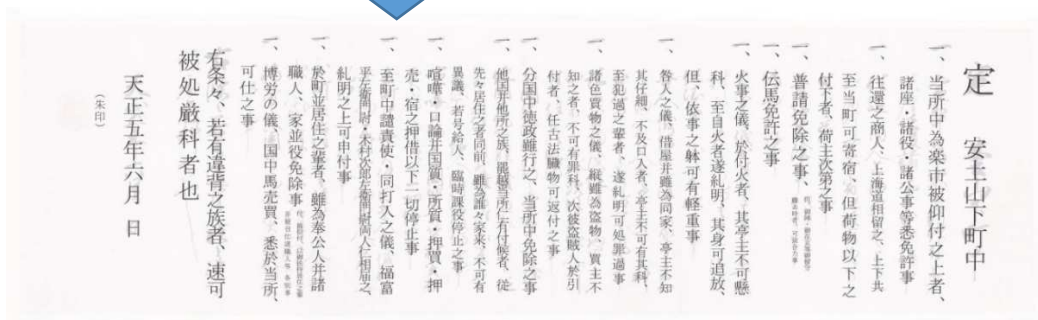
(1) 安土山下町中掟書(国指定重要文化財)

「安土山下町中掟書(あづちさんげちょうちゅうおきてがき)」とは、天正5(1577)年に織田信長が安土城下町に対して出した掟書です。第1条目には楽市楽座について記されていることから「楽市令」として有名です。

この掟書は「八幡山下町中掟書」と併せて、国指定の重要文化財となっています。下の「翻刻文字」というレバーをスライドさせると1文字ずつの活字も確認してもらえます。要約も掲載していますので活用してください。



くずし字が現代の文字に変化します



(2) 伴 蒿蹊(ばんこうけい) 幡山十景(ばんざんじゅっけい)

近江商人の伴莊右衛門家の5代目の当主、伴蒿蹊が北村季吟の「和歌八幡十景」にならって、八幡山からの景色を10の名所に分けて詠んだ歌。

蒿蹊は若くして隠居し、京都に「閑田廬(かんでんろ)」という庵を建て、和歌や国学にたしなみました。歌人としては評価が高く、京都で「平安地下四天王(へいあんじげしてんのう)」とよばれました。

The screenshot shows a web browser window with the URL <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11E0/WJJS06J/2520405100/2520405100200010/ht0000050>. The page displays a comparison of original waka and their explanations for 'Ban Kōkei's Hachiman Jūkyō'. The browser's address bar and tabs are visible at the top. The page content is divided into two main columns: '和歌原文' (Original Waka) on the left and '和歌解説' (Waka Explanation) on the right. A green callout box points to the '和歌解説' column, stating '和歌の原文と解説を比べて見ることができます' (You can compare the original waka and the explanation). The '和歌原文' column lists three waka: '幡山櫻花' (Hachiman Sakura), '北莊苗代' (Kita-shō Naotake), and '衣笠夏雲' (Utsunogahara Natsugumo). The '和歌解説' column provides the explanation for each waka. The browser's taskbar at the bottom shows the Windows logo, a search bar, and various application icons. The system clock in the bottom right corner indicates the date and time as 2020/05/12 17:04.

【目録】

和歌の原文と解説を比べて見ることができます

和歌原文

伴蒿蹊比牟禮山十景

幡山櫻花

神のます 山へのさくら 豊旗の
しらはたなして 今盛なり

北莊苗代

澤水を こゝろのまゝに まかせては
みとりもはやき 里のなはしろ

衣笠夏雲

【如法印之説非本国名所、然
稱織山亦在故直用此名作哥】

きぬかさの 山よりうへに さし出て
あやしき峰は 雲にさりける

和歌解説

幡山櫻花

神のいる山の桜は、豊かで白く今花盛りである。

北莊苗代

沢水がこころにまかせ思い通りに流れている。
里の苗代の緑も早くも映えている。

衣笠夏雲

(法印(北村季吟)の説のとおり、(衣笠は)本国の名所ではないが、織山の呼称や古より名が使われていることから作歌した。)

織山の上にさし出でて
あやしく見える峰は、雲として去って行った。

- ① 幡山櫻花・・・八幡山の桜を詠む
- ② 北莊苗代・・・沢の水に満ちた北之庄の苗代を詠む
- ③ 衣笠夏雲・・・衣笠(織)山にかかる夏雲を詠む
- ④ 豊浦納涼・・・豊浦の藻刈舟を詠む
- ⑤ 遠景晚霧・・・安土城の名残を詠む
- ⑥ 丸山名月・・・湖面の月影に映える円山遠景を詠む
- ⑦ 巖崎時雨・・・岩崎(伊崎寺)の時雨の情景を詠む
- ⑧ 檜杉積雪・・・雪がつもる日杉山(願成就寺)を詠む
- ⑨ 樹間鏡山・・・樹木の間から見る鏡山を詠む
- ⑩ 山越三上・・・三上山遠景を詠む

絵図・地図編

(1) 江州蒲生郡地図

市内の町名は江戸時代の村名とほぼ変わっていません。また、その位置関係や地域のつながりを視覚的に確認できる絵図も公開しています。



グーグルマップ
を重ねると・・・



古地図と現代のグーグルマップ地図と重ねて、昔と今を比べることができます。

【市内学生】

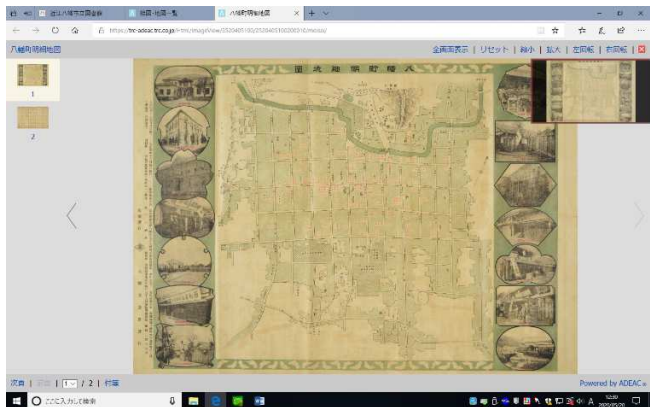
とても興味深かったです。昔は西の湖はその一部が安土駅近くまで至るほどの大きさで、大中湖などつながる、広大な面積を誇っていたのが、現在では、その面積は約半分ほどの大きさになっていることが分かり、他の地区も見たくなるほど面白かったです。



蒲生郡全体の地図ですが、西の湖の箇所を拡大して、今と昔を比べてみてください！

(2) 八幡町明細地図

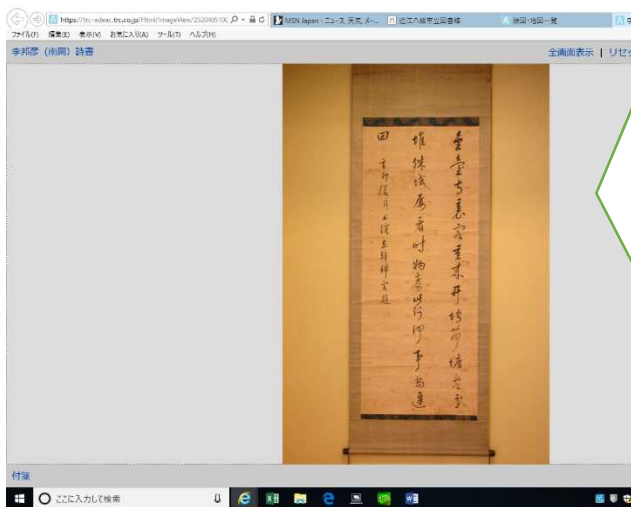
大正4年に作られた地図。官公庁や商店名が記入されていて、当時のおもかげを知ることができる興味深い資料です。



八幡尋常小学校（現在の八幡小学校）は道路をはさんだ向かいに校庭があったことがわかります。

(3) 李邦彦詩書(りほうげんししよ) ユネスコ世界記憶遺産

正徳度通信使来訪(正徳元年・1711)の帰国時に昼食休憩先である本願寺八幡別院(金台寺)へ三使のうちの従事官である李邦彦から贈られた七言絶句。書院から見る雪景色を見ながら、故郷への思いをつづっています。季節が(秋から)冬へとうつりかわっていることをよんだ漢詩。



李邦彦詩書(七言絶句)

金台寺裏客重来 竹塢荷塘乱雪堆
残域属看時物変 此行何事尚遅回

【要約】

金台寺に再び訪れると、竹垣に雪がうず高く積もっている。

移りゆく時間はしばしば私たちの見るものを変える。

(この旅で) 私たちはなんと長い時間を(異国で)過ごしているのでしょうか。

引札・ちらし編

引札とは、江戸時代から昭和初期ごろまでにつくられた商店のチラシです。かつての宿場町や湊町の商店の名前が確認できます。



引札をクリックすると拡大してみることができます。安土の常楽寺にあった呉服屋さんの引札です。



近江八幡市立図書館

令和2年5月発行